

イエスはガリラヤ全域を巡って、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、民の中のあらゆる病、あらゆるわずらいを癒された。  
マタイ4：23

今から、55年前頃の出来事です。蔵教会牧師の高橋久之先生が、私のアパートを訪問してくださいました。それが、私が教会に行くきっかけになりました。もしこの訪問がなかったならば・・・、私はどうなっていたのでしょうか？ 改めて訪問することの大切さを示されています。

——— 出かけることの、大切さ ———

聖書には、伝道のために用いられた足の美しさについて、次の様に書かれています。  
(ローマ10:15節)「遣わされることがなければ、どのようにして宣べ伝えるのでしょうか。『なんと美しいことか、良い知らせを伝える人たちの足は』と書いてあるようにです。」

さて、ここには、イエス様のガリラヤ地方でのお働きがまとめられています。

イエス様はガリラヤ全土を巡って、実に忙しく毎日を過ごされていました。「巡って」とは、イエス様はご自分の所から、人々の所に出ていった、ということです。出て行って、「教え、宣べ伝え、・・・癒された。」のです。イエス様の実に積極的な生き方が見えて来ますね。

——— イエス様の3つの働き ———

今朝のみことばから、私たちは主の3つの働きについて学ぶことができます。その

- ・ 第1は、「会堂で教え・・・」とあるように教育です。
- ・ 第2は「御国の福音を宣べ伝え・・・」と記されているように伝道です。
- ・ 第3は「あらゆる病、あらゆるわずらいを癒された。」記されているように愛の奉仕です。

イエス様はいつでもどこでも、この3つの大切な使命を持っておられ実行なさいました。

さて、9章35節には、4章23節と、同じ様なみことばが書かれています。

(9:35節)「それからイエスは、すべての町や村を巡って、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、あらゆる病気、あらゆるわずらいを癒された。」

4章23節と9章35節によって、サンドウィッチの様に挟まれた4章～9章の中には、山上の垂訓もあり、イエス様の3つの働きが具体的に書かれています。この2つのみことばに共通しているのは「ガリラヤ全域を巡って」「すべての町や村を巡って」です。

イエス様が積極的に人々を求めて「出て行かれている」ということが良くわかります。

私が、この中部地区に導かれたばかりの頃でした。「東海福音フェローシップ」が開催されましたが、その中で中津川教会の水垣牧師が証をされました。先生は、よく訪問をされる方で「伝道者は出て行くべきである」と、熱く語っておられました。特に先生は、歩

いて訪問することを強調されておられました。先生は訪問をする時はいつも、汗をかきながら、たくさんの靴をこわし、ほこりをあびて、訪問先の家を探します。その間ずっと、祈りながら、その人の事を思いつつ、その方の生活を想像しているのです。家が近づくにつれて、その方に会う備えが出来るそうです。」先生は続けて言われました。「私は車を使わない。自転車にも頼らない」先生は、87歳で召されましたが、この姿勢は最後まで変わりませんでした。出て行く、と言う事は愛なのですね。

イエス様も出て行って3つの働きをされました。1、教育 2、伝道 3、愛の奉仕です。

### ——— 教育の働き ———

第1は教育です。

救われて神の子供とされた私たちは、いつまでも赤ちゃんのままであってはいけません。生きている人は必ず成長します。そして、絶えず成長し続けなければなりません。ですから教会は大人も、子供もすべてのクリスチャンに対して「学び」の場を設けるべきです。教会でしっかりとみことばを学びたいですね。最初のうちは赤ちゃんが食べるようなやわらかい食事かもしれませんが、しかし次第に堅い食事が食べられるようになります。「あなたがたは年数からすれば教師になっていなければならないにもかかわらず、神のことばの初歩をもう一度だれかに教えてもらう必要があるのです。あなたがたは堅い食物ではなく、乳を必要とするようになっています。まだ乳ばかり飲んでいるような者は、義の教えに通じてはいません。幼子なのです。しかし、堅い食物はおとなの物であって、経験によって良い物と悪い物とを見分ける感覚を訓練された人たちの物です。ですから、私たちは、キリストについての初歩の教えをあとにして、成熟を目指して進もうではありませんか。・・・」(ヘブル 5:12~6:1)

このようにしてキリストの体である教会の一人一人みんなが、赤ちゃんクリスチャンから、少年クリスチャン、青年クリスチャン、そしてキリストにある成人クリスチャンとなっていくのです。このようにして学んでいきますと、どうしても幼児科から成人科に至るまでの教会学校が必要だということがわかりますね。

では、教会で一番学ばなければならないことはなんでしょうか？それはキリストです。キリスト教ではなくキリストです。キリストというお方がどんなに素晴らしいお方か、そのキリスト様からどんなに愛されているか知っていただきたいと思います。「会堂で教え・・・」会堂で、つまり教会でみことばを学ぶことの意味についてです。

聖書をひとりで学ぶだけでは、神様の御旨を正しく、十分に理解することは出来ません。近代の多くの日本人作家が、聖書を個人的に読むだけで、教会で共に学ばなかったために、聖書を神様の救いの福音としてではなく、宗教的倫理的教訓の本としてしか理解できなかったのは、大変残念な事です。聖書は神様が教会に与えられたことばです。聖書は教会で

開き、みんなで共に学ぶ神様からの手紙なのです。更に、みことばを学ぶだけでなく、イエス様の心に触れなければなりません。イエス様の心が私の心になれば素晴らしいですね。そして、教会は真理の最後の砦でもあります。

あの三浦綾子さんも、毎週、教会の礼拝に出席、出席者と共に、牧師のメッセージに耳を傾けていたのです。

(使徒 17:11 節)「この町のユダヤ人は、テサロニケにいる者たちよりも素直で、非常に熱心にみことばを受け入れ、はたしてそのとおりかどうか、毎日聖書を調べた。」

#### ———伝道の働き———

第2は、伝道です。イエス様は「すべての町や村を巡って御国の福音を宣べ伝え」られました。教会は例え効果的でない様に見えても、出て行って福音を宣べ伝えるべきです。

(マタイ 24:14 節)「御国のこの福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての民族に証しされ、それから終わりがきます。」聖書は、全ての人々が、救われたらではなく、全ての人々が福音を聞いたら終わりの日が来ると言っています。ですから教会は、教会の外に向けて、神様のメッセージを伝えて行かなければなりません。教会は福音放送局です。天からの御声を、教会で増幅して、世界に送るのです。あらゆる方法で伝えます。

(マタイ 10:23 節)「・・・まことに、あなたがたに言います。人の子が来るときまでに、あなたがたがイスラエルの町々を巡り終えることは、決してありません。」

また、イエス様は次の様にも言われました。「あなたがたがどんなに熱心に伝えていても、全ての人々に伝える前に人の子は帰って来ます。」この意味は、すべての人々に福音を聞かせようとして、一生懸命に伝道している最中に、イエス様は再臨されるというのです。更に、主は次の様にも言われました。(マタイ 24:44～46 節)「・・・人の子は思いがけない時に来るのです。・・・食事時に彼らに食事を与える、忠実で賢いしもべとはいったいだれでしょう。主人が帰って来たときに、そのようにしているのを見てもらえるしもべは幸いです。」

#### ———愛の奉仕———

第3は、愛の奉仕です。「イエスはガリラヤ全域を巡って・・・民の中のあらゆる病、あらゆるわずらいを癒された。」イエス様は癒されました。「信じたら癒してあげる」とか、「バプテスマを受けたら癒してあげる」とか言いませんでした。無条件で癒してあげました。愛の奉仕です。

素晴らしいことが起こりました。24 節です。「イエスの評判はシリア全域に広まった。それで人々は様々な病や痛みを苦しむ人、・・・病人たちをみな、みもとに連れて来た。イエスは彼らを癒された。」今までは、イエス様が彼らの所に出かけられました。しかし、今は彼らがイエス様の所にやって来ました。

25 節です。「こうして大勢の群衆が、ガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤ、および

ヨルダンの川向こうから来て、イエスに従った。」も、シリア地方だけではありません。四方八方から、人々は集まって来るようになりました。

教会も集める教会から。集まる教会になれたらいいですね。

さて、9章 35 節をご覧ください。「それから、イエスは、すべての町や村を巡って、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、あらゆる病気、あらゆるわずらいをいやされた。」

4章 23 節と 9章 35 節の間にサンドイッチのようにはさまれて山上の垂訓（5章～7章）が、そしてイエス様の愛の奇跡物語（8章～9章）が記されています。イエス様はお話されるだけでなく、本当に多くの人々を愛しました。そして、癒しました。救いました。

しかしそれでもなお、9:36 節です。「また、群衆を見て深くあわれまれました。彼らが羊飼いのいない羊の群れのように、弱り果てて倒れていたからである。」

病気が癒されて、悪霊が追い出されて、痛みから解放されて、つまり健康になって皆幸せであるはずなのに、イエス様が一人ひとりのたましいをご覧になると、そんな彼らの姿は、まさに「羊飼いのいない羊の群れのように、弱り果てて倒れていた」のでした。

人は、病気が治っても、丈夫になっても、受験に合格しても、良い会社に入っても、事業に成功しても、お金持ちになっても・・・、それで幸せになれるわけではありません。

人は救い主、イエス様と出会って罪と死から救われて、神様の子とされて、永遠の救いを保障されなければ、本当の希望を持つことは出来ません。しかし、目の前の多くの人々を、イエス様をご覧になった時、主はただただ、「深くあわれまれました。」のでした。

あまりにも哀れな群衆を見て、主は言われました。

「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主は、収穫のために働き手を送ってくださるように祈りなさい。」（9:37、38 節）

私たち今、主の期待に大きく、豊かに応えることのできる者でありたいと思います。

主は、あなたを必要としています。

そして、教会の中に、いつも ①主を学ぶ事の出来る教育の働きが、②イエス様を伝える伝道の働きが、更に ③愛の奉仕をいたるところに見ることができれば、何と素晴らしいことでしょうか。

一人の女性が、マザーテレサに質問しました。「あのあまりにも多くの貧しい人々に、私は何をしたら良いのでしょうか？」マザーテレサは答えました。「あなたに必要な事、それはほほえみをつくることです。イエス様も、きつとにつこり笑って、ほほえんで、愛のみわざを起こされたことでしょう。」